

カルスト通信

も り

# 森林のたより

Karst  
correspondence

2002  
vol.6



カルスト森林組合

## カルスト森林組合 貸借対照表

平成14年5月31日現在

(単位：円)

資産の部		負債の部	
流動資産合計	246,016,375	流動負債合計	40,854,450
固定資産		固定負債合計	72,999,171
有形固定資産合計	59,372,039	負債合計	(113,853,621)
無形固定資産合計	245,140		
外部出資合計	42,755,000		
その他の固定資産合計	4,560,303		
固定資産合計	(106,932,482)		
繰延資産	2,516,322		
資産合計	355,465,179		
資本の部			
		出資金	159,523,500
		剰余金合計	82,088,058
		資本合計	(241,611,558)
		負債及び資本合計	355,465,179

## 損益計算書 平成13年6月1日～平成14年5月31日まで

科 目	小 計	合 計	指 導	販 売	購 買	利 用	金 融
I 事業総損益							
1 収 益	494,029,609		1,150,400	7,368,421	24,386,477	460,783,172	341,139
2 費 用	289,707,341		2,860,923	5,885,747	19,799,222	260,941,106	220,343
事業総利益		204,322,268	△1,710,523	1,482,674	4,587,255	199,842,066	120,796

## 平成13年度剩余金処分案

摘要	内訳	合計
I 当期末処分剰余金		16,032,480
II 剰余金処分額		
1 法定準備金	当期剰余金の5分の1以上	2,100,000
2 特別積立金 (うち目的積立金)		10,000,000 (720,000)
III 次期繰越剰余金		3,932,480

脚注 1. 次期繰越剰余金中、教育情報資金は1,000,000円である。

平成14年7月30日第5回総代会で議決。

# 第5回 通常総代会開催

平成14年7月30日

平成13年度通常総代会が去る7月30日(火)午後1時30分からサンワーク美祢(美祢勤労者総合福祉センター)で開催された。総代定数200名に対し、本人出席110名、委任状出席5名、書面出席45名合計160名で、出席率80パーセント。よって法定数を満たし、総代会が成立。議長には秋芳地区総代の藤村實美氏



満場の総代



伯野組合長

を選出し、議事に入つた。  
まず、伯野組合長より「地域林業振興の中核的担い手である当森林組合は経営基盤の強化、間伐を含む森林整備の推進、地域材の販売体制の整備、林業労働力の育成確保などに積極的に取り組んできました。そして厳しさが増すばかりの森林林業を取り巻く情勢のなか、健全経営を念頭に役職員、協力事業体が一体となって努力してきた結果、まづまづの成績を收めることができました。

事業面において、販売部門は間伐材の量を



藤村議長

統いて平成13年度事業報告、平成14年度事業計画など第1号議案から第7号議案、付帯決議まで、いずれも慎重に審議され、全議案とも原案通り、満場一致で可決、承認され、午後3時30分に滞りなく終了した。



臨席來賓

相当取扱ったが価格が安いため  
収益は計画を大幅に下回りました  
購買部門も同様に新植の減少で  
計画を下回りました。しかし、  
利用部門は計画を上回り、なか  
でも請負事業額が4億円確保でき  
組合員からも1億2千万円の受  
託事業の利用がありました。

## 【林家訪問】...シリーズ4



毎秋開かれる美秋材等良質材品評会へ出品する本人の柱材は品質の良さからたびたび入賞している。「自分が手掛けて来た木がそれなりの評価を受けると、やはり嬉しい」と本人はさらりと言つてのけるが、これも、長年の努力の結晶にほかなりない。

生まれは、美祢市西厚保町梅香で、縁あって岩木家の人となる。実父は山好きで、兄も菊川町華山付近にあった県林業講習所の出身。とても研究熱心で、専門知識が豊富な兄の影響を強く受け、林業にも励み、兄の理論を実践するため、当時珍しかった枝打を行つた。現在、枝打ちはビール瓶を目安に打ち始めることが一般的になつたが、それに近いことを当時すでにやつた。兄の存在の大きさが、窺われる。

昭和32年、岩木家に入った年からさっそく植林を開始。その頃、値の良かった木を育て、山を退職金代わりにするという発想からだつた。4年間農業をやつたが、昭和36年から楠町役場に勤め始め、公務に支障がないよう、早朝や土、日返上で山仕事に打ち込んだ。

そして昭和46年、自分の山の木で母屋を建て、昭和52年には町林務係長となり、吉部の荒滝山に28haの公社造林に着手、いろんな経験を積む。その一方で、本人も子供の出生や慶事のさい、その都度、記念造林を行い、それらは現在立派な山となっている。所有林6haのうち、人工林は4ha、スギ、ヒノキの比率は2対8。60年を越すヒノキもある。若齢木を除いてほとんど6mの枝打が行われているが、これも美祢地区林研が久万林業の指導林家を講師に招いたさい、早期の枝打材は良質材として、高く取り引きされると教わつたからだ。

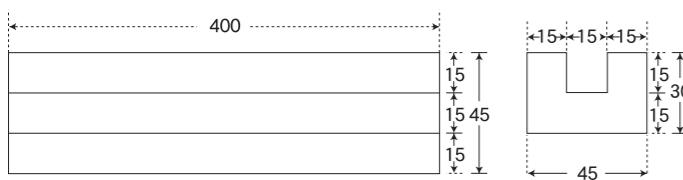


見事に枝打された林内

## 排水施設にコンクリート横断溝をご利用下さい。



作業道で活躍中のコンクリート横断溝



ご希望の方は森林整備課までお問い合わせください

TEL 0837-52-3332

厚狭郡楠町・岩木良介さん S13.3.29生



平成10年、楠町役場を経済課課長で退職。ますます林業に拍車がかかり、4年前からクローラン造林に取りかかる。品種は上高を始め4品種で、苗木は同町林研会長の田邊厚實氏の斡旋。特筆すべきは、同氏の山にはいろんな試みがしてあることだ。ワサビが植えられ、出荷ができる千両もある。ケヤキの接ぎ木があり、それらを見る同氏の目は、いかにも楽しげな風情だ。しかし今後はスギ、ヒノキ1本やりでなく、現在あるシイ、カシ、ケヤキの天然林を生かす施業に取り組みたいとの意欲も見える。

本人曰く、最近の材価の安さでは、木を育てるために投資した労力の見返りが、余り期待出来ない。このことは残念の一言に尽きるが、外材も無限ではないから諦めることもない。売るのは200~300年先でもよいではないか。自分の手掛けた木が、自分の身代わりとして後世に残ればそれでよい。偽らざる心境という。「後世に望み託してさあ間伐」県美祢林業事務所の林業標語に入選した本人のものだ。本日も美東町綾木の国道筋にあるこの標語を見やりながら、多くの車がそばをとおり抜けて行く。

〒757-0211

厚狭郡楠町大字芦河内  
452 ☎ 0836-67-2030

## 優良柱材等常設展示室オープン

厚東川と厚狭川の上流域で林家の方々に大事に育てられた木材が美秋材と呼ばれます。この度、これらの製品化された柱材の常設展示室が組合本所内にオープン。これは組合管内外の方々に美秋材の品質の優秀性を理解していただき、しかも何時でも、誰でも自由に見学でき、1本の柱材から気軽に求めいただける場として設置したもの。合併当初から、組合員の方々の強い要望もあって、ようやく実現に至つた。



品評会で入賞の柱材も展示



地産地消・美秋材で家づくり

展示の柱材は毎秋開催される美秋材等良質材品評会の出品材で、品質には定評がある。3メートル×12センチ角のヒノキ柱材が主体で展示本数は常時100本前後。木造建築を予定の方、増築、改築をお考えの方、ぜひご覧下さい。お待ちしております。

## パイプソー

本体900円のパイプソー。3年前から売れ筋、随一。替刃は1枚210円。取り替え簡単。切れ味十分。若齢木の枝打には最適。良質材を育てるにはまず枝打。一丁は常備しておきたい。



買っておトク  
使ってナットク  
林業用資材  
今回のお薦めは  
次の3品です。

お問い合わせ・お申し込み  
**TEL 0837-52-3332**

## チェンソーオイル

ハスクバーナのチェンオイルもお薦め。(1缶18ℓ) 3,200円と超安価。3缶まとめてお買い求めいただくと9,000円。600円もお得です。この他、水洗い一発。油汚れ解消の水溶性もあり、(1缶18ℓ) 4,200円。



## スパイク地下タビ

山仕事にスパイク地下タビも欠かせない。サイズは22.5センチから28センチまで。各サイズとも4,000円均一。滑りにくく、作業も安心。仕事の効率も上がる。



万一、ご希望の製品の在庫がない場合、至急取り寄せます。お気軽にご注文下さい。

# 協力事業体紹介 今回は美祢市・広瀬義光班をご紹介します。

広瀬班長の1日は早朝からマイクロバスで班員の家々を回り、班員のピックアップから始まる。現在、班員構成は班長を含め9人。1人当たりの出勤日数は年間240日前後。班長は高校卒業後、30年ばかり、会社勤めを経験したが、事情があって平成元年から近所の木村省己班長のもとで働き始め、林業の経験を積む。平成6年木村班長の引退に伴い同班を引き継ぐたちで独立する。

班員として林業に携わったものの、班長となると気苦労も絶えない。林業の仕事はとにかく危険が付き物。絶えず班員にケガのないよう細心の注意をはらう。だから班長の指導もあって、チェンソー、刈払機については、全員が資格を持つ。また夏の下刈り作業は疲労が激しい上に、油断できない。それはハチとマムシの存在だ。特にハチは防ぎようがない。

苦労話ばかりでは疲れるが、楽しいこともある。



美祢市・桜山森林公園の下刈

班員全員で毎年行く2泊3日の慰安旅行だ。道中話も大いに弾み、日頃の苦労もどこかに吹き飛び、また明日から頑張るぞと元気が出る。班員が一心同体となるよい機会でもある。

組合も3市4町の合併に伴い仕事の範囲が広がった。もともと美祢市有林閥

係の仕事が多かったが、5年前から宇部・霜降山の治山事業も手がけている。

最近、広瀬班長は、木と人間の関わりを深く考えるようになった。それは豊田前町の市有形文化財・麻生八幡宮の大総代を10年前からつとめ、由緒ある八幡宮の大改修を行った経験による。大改修を終え、3年振りに同宮

が姿を現わしたとき、その莊厳さに心を打たれ、これこそ日本人の魂の拠り所を感じたという。

数百年という歴史あるお宮は50~100年毎に修復を繰り返さないと維持できない。しかも使用する木材は厳格に選び抜かれたものを必要とする。だから同宮の周囲にはヒノキを植林、すでに30年生の立派な森林に成長している。班長は子々孫々まで、この森林を大事に育て、自分の見果てぬ夢であることは承知の上で、同宮の用材として使用されることを願っている。

広瀬班長は思う。木の文化こそ長い年月をかけて培われて来た日本の文化ではないのか。日本の国が誇る木の文化こそ、日本の国が存在する限り、伝承されて然るべきだ。しかし、周囲を見渡せば、木造建築は著しく減少している。そこで班長は今こそ日本の風土と気候にあい、肌の温もりが直接伝わる木の良さを訴え、木造建築の再生を図るべきと提言する。その実現のためにはこれからも弛まず木を植え、育てるという信念は変わらない。



作業中の広瀬班長

## 表紙の写真

写っているのはいずれも胸高直径60cm以上、林齢120年前後の大杉。美祢市伊佐町掘越にある標高455mの桜山の8合目あたりに位置する古刹南原寺の裏山。鬱層たる大径木が天に向って聳え立つ姿はまことに壯觀の一言に尽きる。付近には林齢300年を優に越える巨大スダジイなど照葉樹林が群生し、見事な景観を添えている。

## 編集後記

2002.vol.6(年2回発行)

景気の長期減退で農山村を取り巻く状況は一段と厳しさを増し、特に林業は手痛い打撃を受けています。さらに極端な材価の下落は、出荷者に追い打ちをかけ、生産意欲を失わせ、組合経営を苦境に立たせています。しかし、組合はこの状況にもめげず、頑張って参りますので、組合員の方々のさらなるご支援、ご協力をお願いします。

## 大看板が目印

国道316号線沿いに車を走らせるサンワーク美祢（美祢勤労者総合福祉センター）広域シルバー人材センターの看板と並んで、白地にカルスト森林組合とグリーンの文字が鮮やかな、看板が目に止まると思います。これが組合の所在を示す目印で、かつシンボル。近くにお越しの際は気軽にお立ち寄り下さい。



カルスト森林組合

〒759-2212 山口県美祢市大嶺町東分418番1  
TEL0837-52-3332 FAX0837-52-2587